



# KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊 / 数学教育 / 渡辺 崇人

2025 年 4 月 4 日 Vol. 27

本日は、2024 年 7 月に行われた Science Fair (サイエンスフェア) についてご紹介いたします。これは、弊校の隣にある Karibib Private School (カリビブ私立学校、小学校 1 年生～高校 3 年生まで在籍) と合同で、科学分野に関して学んだことの展示や発表を行うという催しです。対象は有志の生徒です。上野にある国立科学博物館で丸々 3 日、時間を過ごせるほどこういうものが大好きな自分は、先生・生徒と共に準備を少しお手伝いし、当日、会場にも顔を出しました。

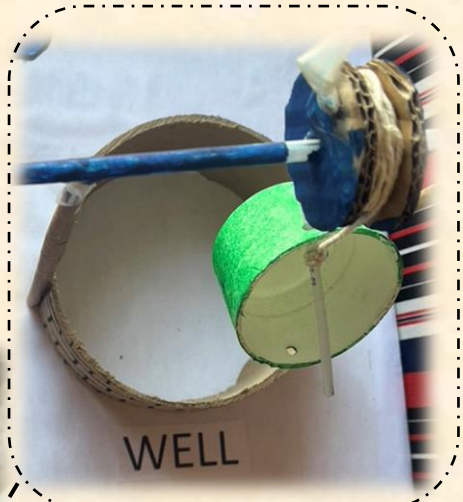


写真 1 : 弊校 Gr9 が作った水資源の模型図

写真1は弊校のGr9(中学3年生)が作った水資源の模型図です。何よりすごいなと思ったことが、生徒が自力で調達できる材料でこれを作ったことです。例えば雲は綿を、水のタンクや井戸は段ボールやペットボトルのキャップを、水道や掘削穴はプラスチックのキャップやストローを使っています。もちろん、日本にいればどれも手軽に手に入るような物ばかりです。しかし、ナミビアだと町にあるお店の規模・数で調達難易度が変わり、日本のように誰しもが持っている材料ではないため入手難易度が上がります。それでも持っていそうな人を尋ねて回り、自分たちの力だけで調達してきたその努力が素晴らしいと思いました。また、絵ではなく三次元の模型にしようとしたこと、どこに何の材料を使うかといった発想も同じくらい素晴らしいと思いました。おまけに、井戸は滑車を巻くときっちり“つるべ”が上下できるような仕様になっているこだわりようです。本当にこれらすべてに脱帽です。

《当日の会場の様子》

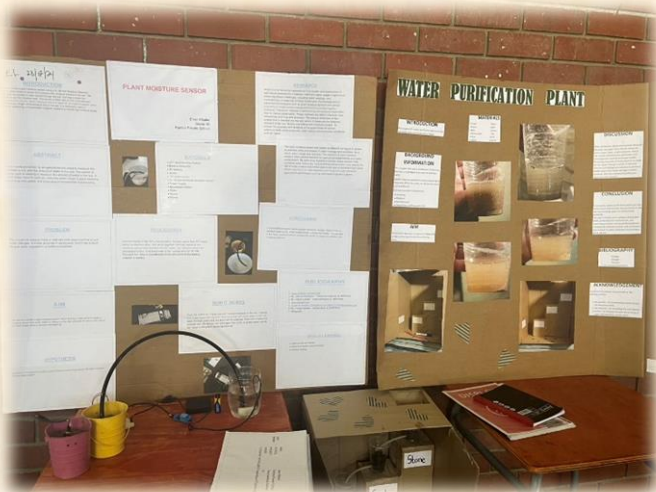


写真2：浄水する植物について

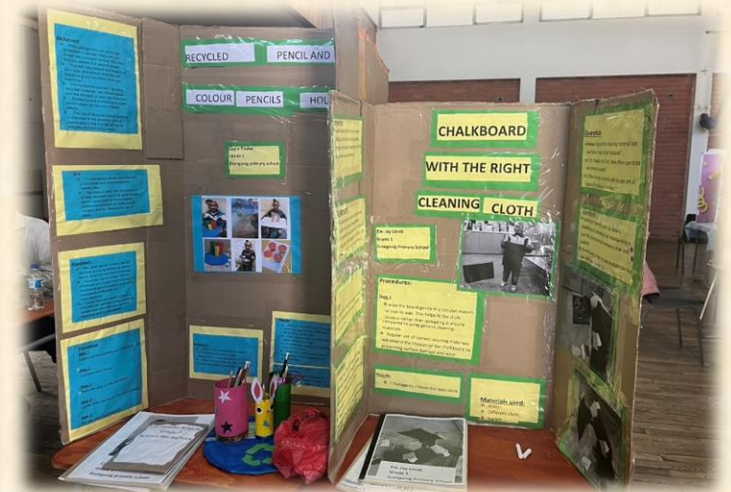


写真3：リサイクルペンについてと  
黒板消し時の適切な服装について

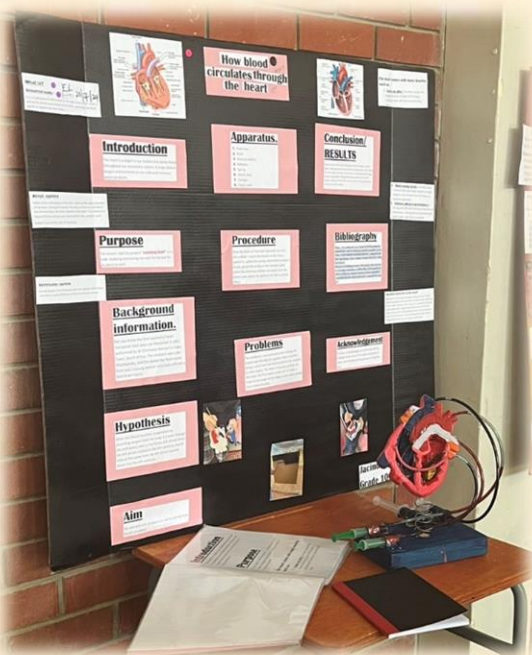


写真4：心臓からの血液の循環モデル

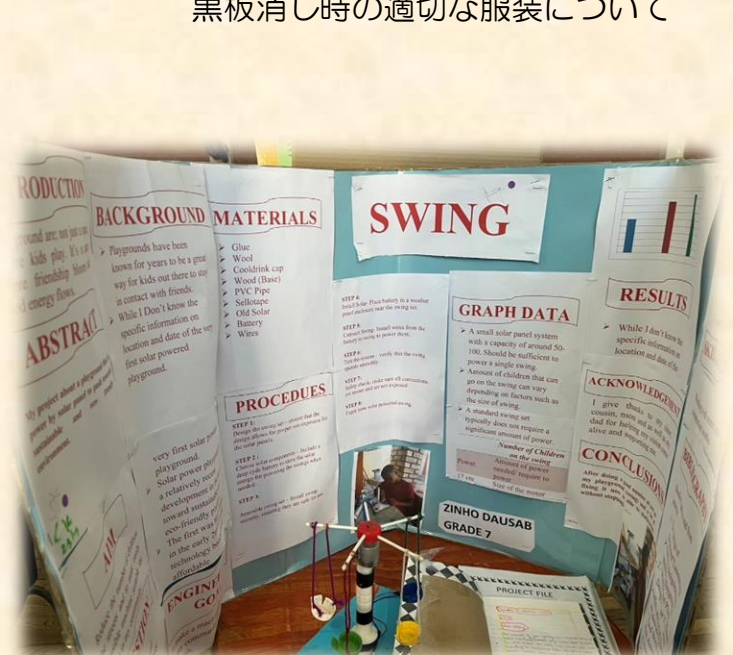


写真5：ソーラーシステムによる遊具の模型

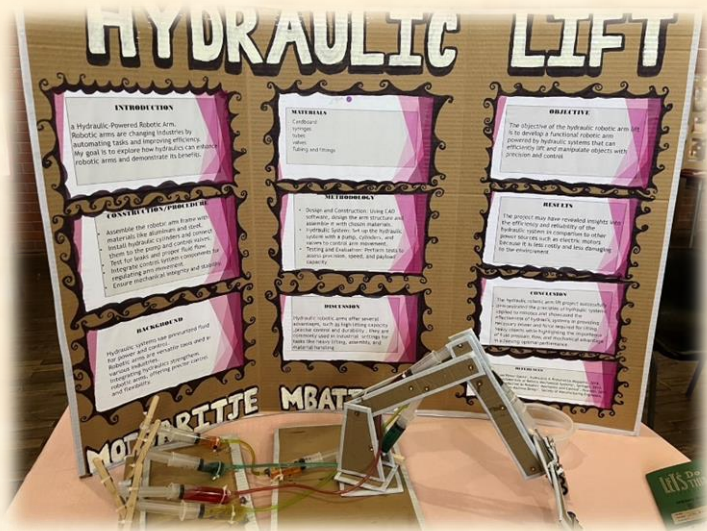


写真6：油圧昇降機のモデル



写真7：水力発電について

写真2～7は会場にあった Karibib Private School の生徒が作った展示の一部です。やはり、自分たちで調達できる物を使って上手く模型を作っていること、また取り扱っているトピックの着眼点も素晴らしく、どれも甲乙つけがたい程レベルが高いと感じました。日本の高校で担任をしていた時も、外部でサイエンスコンクール等のイベントを見つけては有志の生徒と参加していたほど、前述の通りこういったものに大変興味があるため、顔を出すだけでワクワクしました😊。

ナミビアの学校では、日本と比較してイベントの数が非常に少ないです（宿泊行事や文化祭がない、また陸上大会も一部の生徒が競技に参加する形式）。そのため各種イベントに関わらないまま卒業・退学してしまう生徒の方が圧倒的に多いのが現状です。このような状態であることもおそらく一因となって、生徒があまり授業に集中していない、メリハリがないと感じる瞬間が少なくありません。一方、過去のナミビア通信で何度か紹介させていただきましたが、こちらの学校で何かイベントを企画・実行しようとする、様々な要因が重なり、日本の何十倍もの労力が必要だとも感じます。だからこそ、こういったイベントは無くさず、未来永劫続いて欲しいなと思いました。自身は 2025 年も企画を考え、すごいと自画自賛できる（しないとやってられない？）ことを行いました。だいぶ先にはなりますが、またご紹介させていただきます。

ちょこっと余談

久しぶりのこのコーナーです。先日、とある生徒から「私の父と話をしたい」と呼ばれ、いつものことながら数学の追加補習が成績のことかなと思って伺いました。すると、

**父** 『V0■X # ξφ7eÅ ♀ N #∴.....』（1年半近くいるといよいよ現地語で話して来るようになるのか。ただ、申し訳ないが分からないんだよな...）

**私** 「Come again, please?」（もう一度お願いできますか？）

**父** 『娘が大変お世話になっております。』（!!!!!!!!!!?)

あまりにも流暢な日本語で、ナミビアで日本人からも聞いたことのない言葉だったため、最初は聞き取れませんでした。その方はドイツ系の方でしたが、聞いた所によると大阪で数年働いていたことから日本人と遜色ない程日本語が話せるとのこと。しかし日本語クラスでの話し方の癖が出てしまい、こちらが片言ぎみに、先方が流暢に話すというどちらが日本人か分からない状況がしばらく続きました（笑）。ただ、日本人が少ない国で、日本人以外からこんなにも日本語を聞くと想像の何倍もテンションが上がりますというお話しでした(〜)。

次回：ナミビアの塾？予備校！？ 教育機関 NAMCOL についてご紹介します。